

小勝禮子

1955 年埼玉県生まれ

専門：近現代美術史、ジェンダー論、博物館学

お茶の水女子大学文教育学部史学科卒業

早稲田大学文学研究科芸術学専攻（美術史）博士前期課程修了

1984 年より栃木県立美術館学芸員 2008 年－2016 年同館学芸課長

実践女子大学、京都造形芸術大学、明治学院大学、学習院女子大学ほか非常勤講師

イメージ&ジェンダー研究会、美術史学会、ジェンダー史学会会員

国際博物館会議 ICOM 個人会員

主な展覧会企画（栃木県立美術館）

「物語る絵 19 世紀の挿絵本」展（町田市立国際版画美術館巡回、1989 年）

「本の宇宙詩想を運ぶ容器」展（1992 年）

「死にいたる美術－メモトモリ」展（町田市立国際版画美術館巡回、1994 年）

「揺れる女／揺らぐイメージ」展（1997 年）

「メディテーション真昼の瞑想 90 年代の日本の美術」（1999 年）

「奔る女たち－女性画家の戦前・戦後 1930－1950 年代」展（2001 年）

「前衛の女性 1950－1975」展（2005 年）

「柄澤齊展 宙空の輪舞」（神奈川県立近代美術館巡回、2006 年）

「イノセンス－いのちに向き合うアート」展（2010 年）

「アジアをつなぐ－境界を生きる女たち 1984－2012」展（福岡アジア美術館ほか巡回、2012－13 年）

「戦後 70 年：もうひとつの 1940 年代美術」展（2015 年）

共著

小勝禮子（責任編集）「アサヒグラフ別冊」美術特集西洋編 30『ロートレック』（朝日新聞社、1994 年）

青木茂監修『近代日本版画の諸相』（中央公論美術出版、1998 年）

香川檀・小勝禮子『記憶の網目をたぐる－アートとジェンダーをめぐる対話』（彩樹社、2007 年）

北原恵編『アジアの女性身体はいかに描かれたか』（青弓社、2013 年）

論文

「田部光子試論－『前衛（九州派）』を超えて」、『美術運動研究会ニュース』93 号、2008 年 5 月 5 日

「フィリピンの女性とアート、『トラウマの中断』展をめぐって」、『美術運動史研究会ニュース』102号、2009年4月15日、pp.7-15

「戦時下の日本の女性画家は何を描いたかー長谷川春子と赤松俊子（丸木俊）を中心として」、北原恵編『アジアの女性身体はいかに描かれたか』（青弓社、2013年）pp.27-72

「美術史とジェンダーー日本の美術史研究・美術展におけるジェンダー視点の導入と現状ー」、『ジェンダー史学』第12号、2016年10月、ジェンダー史学会、pp.75-79

Reiko Kokatsu,"the'Power of Women'Existing throughout History", Beck Jee-sook ed., *Pink Room, Blue Face-Yun Suknam*, Seoul, Hyunsil Cultural Studies, 2009, pp.83-112.

Reiko Kokatsu,"Mitsuko Tabe: Beyond Kyushuha" (translated and edited by Midori Yoshimoto), *n.paradoxa, international feminist art journal*, vol.27, january, 2011 Women's Work, pp. 38-46

“Yun Suknam: Pink Room, Expand the Place for Women to The World”, *Yun Suknam/Heart* (Exh.Cat.), Seoul Museum of Art, 2015.4.21-6.28, pp.80-91